

流木アートで 佐賀関をPR

休憩用ベンチ、案内板、モニュメント……

【大分】大分市の日本文理大の学生が、佐賀関地区の海岸に漂着する流木を活用したアートプロジェクトに取り組んだ。観光資源の多い佐賀関半島の魅力をPRし、地域活性化につなげようとモニュメントや観光スポットへの誘導看板を制作。近く半島の各所に設置するという。



文理大の学生が制作した黒ヶ浜の案内板。六つのアート作品が佐賀関半島を飾る。大分市

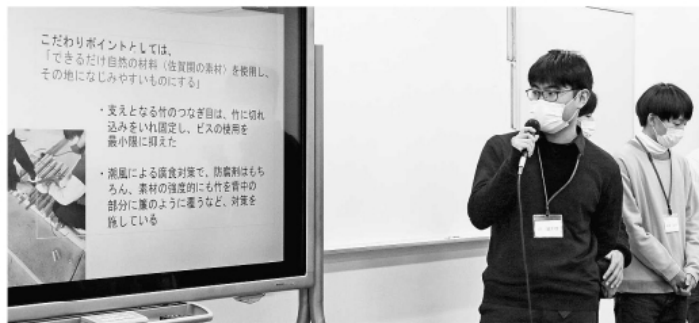
文理大生が制作

プロジェクトは、地域づくりや地域の課題解決に実践的に取り組む授業の一環。吉村充功教授が同地区を授業やゼミ活動のフィールドにしている。大分商工会議所佐賀関支所(古山信

介支所長)が「流木を地域の活性化に役立てられないか」と提案。工学部建築学科の2年生29人が6月から始動した。学生たちは現地を視察し、班ごとに制作物を構想。

7月にビーチクリーン活動を兼ねて古宮海岸で流木を集め、3、4カ月かけて制作に励んだという。今月1日、同大で学生が成果を披露した。▽休憩用のベンチ▽観光スポットの案内板と照明代わりのランプシールド▽海と森を表現したモニュメントなど。

6班が趣向を凝らした。同じ景色が続く林道の景観にアクセントを持たせた二造形物を写真に撮り、会員制交流サイト(SNS)に投稿してもらうことで宣伝効果が期待できる。などとコンセプトや地域活性化へのアイデアを発表した。



プロジェクトの成果を発表する学生

こだわりポイントとしては、「できるだけ自然の材料(佐賀関の素材)を使用し、その地になじみやすいものにする」

- ・支えとなる竹のつなぎ目は、竹に切れ込みをいれ固定し、ビスの使用を最小限に抑えた
- ・強風による腐食対策で、防錆料はもちろん、素材の強度的にも竹を骨中の部分に集約するように工夫など、対策を施している

「日本の渚百選」の黒ヶ浜の案内板を作った班は、板に周辺の観光スポットのイラストも飾り付けた。リーダーの嶋津紘平さん(20)は「初めて訪れる人に佐賀関の魅力が一目で伝わるように意識した。自然の素材を極力使い、周囲の情景になじむようにした」とこだわりを説明した。

制作物は設置場所を調整し、許可が取れ次第、順次現地に飾る。発表会に参加した古山支所長は「コロナ禍や時間的な制約があった中、結果を出してもらったと感謝。プロジェクトを一つの土台に大学や地元団体、行政なども連携しながら地域づくりを継続、発展させていきたい」と話した。(玉井美智子)